

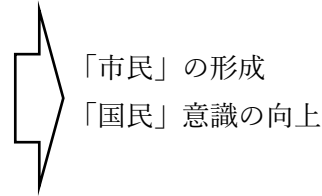
## 世界史 B 演習 休校中学習課題 1 (教科書 256 頁～287 頁参照)

以下の【 】内に適当な語句を解答用紙に書き込み、解答用紙を提出してください。

### 18 世紀

#### ○市民革命と産業革命

- ・16 世紀～ ルネサンスの影響 → 封建体制への疑問が増大
- ・1770 年代～ アメリカ合衆国の成立
- ・1789～ フランス革命
- ・18 世紀半ば～ 産業革命



### ウィーン体制

#### ○ウィーン会議 (1814～15)

- ・ナポレオン戦争の戦後処理
- ・オーストリア外相【1 人名】が主導

#### ○ウィーン体制の成立 (1815)

- ・“フランス革命以前の体制” = 【2】主義 (フランス外相 人名 タレーラン が提唱)  
→ ヨーロッパ = 王政国家群
- ・革命・独立・ナショナリズムを抑圧
- ・イギリス・フランス・オーストリア・プロイセン・ロシアの勢力均衡 = 列強体制
- ・列強体制による支配
- ・四国同盟 (のち五国)・神聖同盟 で補強
- ・フランスでは ブルボン復古王朝 (人名 ルイ 18 世)
- ・プロイセン・オーストリアの一部 + 35 君主国 + 4 自由都市 → ドイツ連邦

### ウィーン体制の動揺・崩壊

#### ○自由主義とナショナリズム ← フランス革命思想 (自由・平等・主権在民)

- ・【3】 = 反特権階級
- ・【4】 = 民族を単位とした国家 (国民国家) 形成
- ・ドイツ・イタリア・ギリシアなどで展開

#### ○【5】革命 (1830、フランス)

- ・人名 シャルル 10 世 の専制 → 民衆が放棄し立憲王政 (七月王政、人名 ルイ = フィリップ) 樹立  
→ 各地へ波及 (ベルギー・ポーランド・ドイツ・イタリア)  
→ 鎮圧されるもイギリス・フランスは人名 メッテルニヒ に非協力的に  
= ウィーン体制の動揺

#### ○崩壊 = 【6】年

- ・【7】革命 (フランス)  
産業革命の進展 → 労働者の普選要求  
→ 第二共和政 の成立
- ・【8】革命 (ウィーン・ベルリン)  
失敗も人名 メッテルニヒ が引責辞任 (失脚) = ウィーン体制の崩壊
- ・【9】の春 → 自由主義政府・国民国家形成が進む

○イタリアの統一

- ・19世紀初頭のイタリア = { 【10】 王国  
両シチリア王国  
教皇領  
オーストリア（ハプスブルク家）領 など

・1830～ カルボナリ・「青年イタリア」（人名 マッツイーニ）の運動（挫折）

・サルデーニャ王国：【11 国王】・【12 宰相】

↓ 産業の近代化、クリミア戦争で国際的地位の向上

1859 イタリア統一戦争（対オーストリア）

・【13 人名】：両シチリア王国を征服しサルデーニャ王国に献上



1861 イタリア王国 成立  
※ トリエステ・チロル は  
「未回収のイタリア」

○ドイツの統一

・1834 ドイツ関税同盟の発足 → 経済的統一の実現

・1848 フランクフルト国民議会で統一が目指される

※大ドイツ主義と小ドイツ主義の対立や、プロイセン王が自由主義を拒否したため統一は挫折

・【14 人名】の登場（【15 国王】が登用）

①鉄血政策（軍国主義的）

②1866 プロイセン＝オーストリア（普墺）戦争

③1870～71 プロイセン＝フランス（普仏）戦争



1871 ドイツ帝国 成立

○クリミア戦争（1853～56）

・オスマン帝国の弱体化 → ロシアの南下政策顕在化

・イギリス・フランスはロシアの南下阻止

・戦後各国は国内問題に専念 → 諸国の統一運動の追い風

○ロシアの改革

・人名 アレクサンドル 2世 がクリミア戦争の敗北から着手

・1861 農奴解放令 ※中途半端 → 一揆・反乱の続発 → 人名 アレクサンドル 2世 は反動化

・ナロードニキの運動：農民の同調得られず → テロに走る

○イギリス（人名 ヴィクトリア女王 期）

・「世界の工場」

・議政のもと民主化が進展 自由党（【16 人名】）・保守党（【17 人名】）

・「アイルランド問題」は未解決

○フランス

・第二共和政期政情不安定

・【18 人名】の登場 → 大統領からクーデタ → 1852 皇帝【19 人名】（第二帝政）  
積極的対外政策もメキシコ遠征に失敗

普仏戦争に敗れ退位

・一時一部でパリ＝コミューン

・1875～ 第三共和政

○人名 ビスマルク 外交（1871～90）

・フランスの孤立 = ドイツの安全 = 人名 ビスマルク 体制 → フランス包囲網の構築（列強体制の復活）

①三帝同盟（ドイツ・オーストリア・ロシア）

②三国同盟（ドイツ・オーストリア・イタリア）

- ③再保障条約（ドイツ・ロシア）
- ④二度のベルリン会議（1878・84～85）“公正なる仲介人”
- ・国内：文化闘争 → カトリック弾圧  
社会主義者鎮圧法 → 社会主義者弾圧 （一方で社会保障の充実）

ラテンアメリカ諸国の独立

○ハイチ（フランス領）

- ・18世紀末～ 人名 トゥサン＝ルヴェルチュール（“黒いナポレオン”）の奴隷解放運動  
→ 1804 史上初の黒人共和国として独立

○ハイチの独立が各地に波及

- ・人名 シモン＝ボリバル（大コロンビア・ペルー・ボリビア）
  - ・人名 サン＝マルティン（アルゼンチン・チリ・ペルー）
  - ・人名 イダルゴ（メキシコ）
- } らの活躍

○独立後

- ・民主化が不徹底 → 独裁・クーデタ多発
  - ・大土地所有残存 → 貧富の差が拡大
  - ・経済的に弱体
- } 国際社会で従属的な立場

アメリカ合衆国の拡大と統合

○米英戦争（1812～14）

- ・経済的自立の必要性 → 工業化 + 西部へ拡大

○モンロー教書（1823 第5代大統領人名 モンロー）

- ・アメリカとヨーロッパの相互不干渉 ※狙いは自立と南米への影響力行使

○西部へ拡大

- ・「明白な天命」
- ・先住民は保留地に強制移住（1830 インディアン強制移住法（第7代大統領人名 ジャクソン））
- ・1849～ ゴールドラッシュ

○【20】戦争

- ・北部：商工業・奴隷制に批判的・共和党が支持政党
- ・南部：プランテーション・奴隷制を支持・民主党が支持政党
- ・1860 共和党の【21人名】が大統領に → 南部が合衆国から離脱（アメリカ連合国）
- ・1861～ 南北戦争（当初は南部が優勢）

ホームステッド法（1862） } 北部が優勢に  
【22】宣言（1863） } → 1863 ゲティスバーグの戦いで北部が決定的勝利

オスマン帝国の動揺

- A：1683 第2次ウィーン包囲失敗
- B：18世紀半ば ワッハーブ王国成立（現サウジアラビア）
- C：1805 エジプトの自立
- D：1829 ギリシアの独立
- ①：【23】の開始（1839～、人名 アブデュルメジト1世）
- E：1853～56 クリミア戦争敗北



②：【24 \_\_\_\_\_】憲法（1876、人名ミドハト＝パシャ）

F：1877～ ロシア＝トルコ戦争

- ・人名アブデュルハミト2世、憲法を停止
- ・戦争に敗れ更に領土喪失

C エジプトの自立

○18世紀末、一時人名ナポレオンの支配

○【25 人名 \_\_\_\_\_】の登場

- ・1805 エジプト総督となり事実上自立
- ・近代化を推進
- ・オスマン帝国にも勝利（エジプト＝トルコ戦争）

※近代化・戦争により債務増大 → イギリスの保護国（1881～82 人名ウラービーの反乱後）

世界史 B 演習 休校中学習課題 1 解答用紙 ※自宅で印刷できない場合は手作りも可

1	10	19
2	11	20
3	12	21
4	13	22
5	14	23
6	15	24
7	16	25
8	17	
9	18	

3年A組 番 氏名：